



立命館大学大学院

リサーチプロポージアルコンテスト

2017 年度募集要項



お問合せ先

立命館大学大学院課

TEL 075-465-8195

Mail d-cp@st.ritsumei.ac.jp

募集概要 ～自分の研究を他者に伝えるために～

みなさんの研究成果は、いずれ論文にまとめられ、社会に問題提起したり、課題の解決策として広く発信されていくことでしょう。しかし、そこに至るためには自分の研究計画をきちんとデザインする力が必要になります。「研究計画をデザインする?」「リサーチプロポーザルはいつも書いている」と思っている大学院生のみなさん、この機会にリサーチプロポーザルを書いて、他者から客観的に見てどのように評価されるのか、チャレンジしてみませんか。たくさんのご応募を心より願っています。

また、本申請書は、日本学術振興会特別研究員の申請書式とほぼ同じ項目となっております。日本学術振興会特別研究員の募集は毎年行っております。リサーチプロポーザルコンテストは日本学術振興会特別研究員に申請する前のトレーニングの場としても位置づけています。リサーチプロポーザルコンテストに申請後、日本学術振興会特別研究員にも積極的に申請し、採択されることを期待しています。

目的

- (1) 研究構想力の向上
- (2) 自身の研究内容や専門知識を、広く社会に伝える力を養う
- (3) 汎用的な文章力の向上

応募資格

応募締切日現在、本学大学院に在学する大学院生

募集分野

文系・理系

募集期間

2017年9月26日(火)～2017年10月23日(月) 17:00まで

応募方法

データにて、右記メールアドレスに送付してください。 d-cp@st.ritsumei.ac.jp

審査結果発表

2017年11月下旬 応募者の連絡先住所に審査結果を送付します。

表彰式

2017年12月中旬

表彰式では、最優秀賞受賞者のプレゼンテーションを行います。

表彰式終了後は、応募者参加による交流会を開催します。

賞

大賞 各分野1名(賞状、副賞図書カード3万円分)

優秀賞 各分野2名(賞状、副賞図書カード1万円分)

敢闘賞 各分野3名(賞状)

主催

立命館大学大学院キャリアパス推進室

応募について

応募に関して

- (1) 応募は1人1件とします。(共同研究は不可)
- (2) 応募内容は応募者本人が作成したものに限りません。
- (3) すでにこのコンテストに応募されたことがある方は、同じ内容での応募はできません。
その後の研究進捗状況を反映させるなど、内容をブラッシュアップしたものをご提出ください。
- (4) 応募書類は返却しません。各自、応募書類をコピーするなどして控えをとっておいてください。
- (5) 応募の条件を満たしていないもの、提出方法について不備のあるものは審査の対象外とします。
- (6) これまでの研究経過および研究成果に関して、研究倫理にもとる重大な虚偽が発見された場合は、「立命館大学学生懲戒規程」にもとづき厳しく対処します。
- (7) 審査に関するお問合せには応じられません。
- (8) 視覚障がいなどにより図で示せない場合等については大学院課に相談してください。

作成要領

- (1) 応募用紙は立命館大学大学院キャリアパス推進室ホームページよりダウンロードしてください。
応募様式は、本コンテスト所定のものを使用し、本文のフォントサイズは10.5ポイントを使用して作成してください。
フォントサイズ、行間、様式の変更、所定様式以外の用紙の追加、**所定枠を超えてのページの追加は認めません。**
大学院キャリアパス推進室ホームページ http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/news/article.html?id=168
- (2) 設問1「研究の概要図」(応募用紙P2)については、応募用紙に記載した研究の内容を図式を用いて概略図を作成してください。
過年度の受賞者の概要図は以下のURLから参照できます。
◇ 2016年度 http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/news/article.html?id=149
◇ 2015年度 http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/news/article.html?id=125
- (3) 応募書類はパソコンで作成してください。
- (4) 応募書類は日本語または英語で作成してください。
- (5) 図表等を用いて、必ずしも専門や前提知識を共有しない読者を想定して作成してください。
略語は使用しないでください。
- (6) 応募書類はPDFデータを提出してください。(d-cp@st.ritsumei.ac.jp)

審査について

審査基準

以下の審査項目について、審査基準（1）論旨・形式の一貫性（2）分かりやすさ（3）知的な示唆（4）研究計画・提案の魅力の観点から審査を行う。

（1） 概要図

概要図が、プロポーザルの要点を押さえ、分かりやすく、かつ魅力的に作成されているかについて評価する。

（2） 研究の目的・内容

研究の目的が具体的かつ明確に示されているか、研究目的を達成するための方法、計画が練られたものになっているか、論旨・形式に一貫性があるか、知的な示唆に富んでいるかについて評価する。

（3） 研究の特色・独創的な点

研究課題を設定する視点に特色や独創性が認められるか、研究が完成したときに予想されるインパクトおよび将来の見通しがあるか、論旨・形式に一貫性があるか、知的な示唆に富んでいるかについて評価する。

（4） 研究の背景

研究の背景について、これまでの研究状況を踏まえ、参考文献を挙げながら説明できているか、論旨形式に一貫性があるかについて評価する。

（5） 研究業績

課程、回生を踏まえつつ、研究業績について評価する。

審査方法

- （1） 審査は、立命館大学大学院キャリアパス推進室のもとに設置する審査委員会において、書類審査により行います。
- （2） これまでの研究経過および研究成果に関して、研究倫理にもとる重大な虚偽が発見された場合は、「立命館大学学生懲戒規程」にもとづき厳しく対処します。

【個人情報の取り扱いについて】

主催者が立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテストの実施に際して取得した個人情報は、学校法人立命館個人情報保護基本方針に基づき適切に取り扱います。

但し、受賞者の氏名・所属（研究科名・課程等）、応募用紙の「研究の概要図」、表彰式の写真は大学院キャリアパス推進室および次回のコンテストの広報時において、ホームページ上で公表・公開します。

受賞者の声

～日本学術振興会特別研究員採用に向けて～

野村 実 2014年度リサーチプロポーザルコンテスト大賞受賞

2016年度より 日本学術振興会特別研究員 DC2 採択

Q.1. リサーチプロポーザルコンテストに応募したきっかけは何ですか。

自分の研究成果をアウトプットする機会の一つとして応募しました。ここで書いたことが奨学金申請や学振の申請につながるであろうと、何となく思ったのがきっかけです。博士前期課程では学会発表や論文執筆に慣れていない時期だったので、問題意識や研究目的の整理として良い機会だったと思います。

Q.2. 申請書の書き方で工夫した点があれば教えてください。

概要図の作成にあまり気を取られないように意識しました。研究目的・内容で書いていることをしっかり図示できているのかという方が重要だと思うので、一旦これまでの研究や研究計画を書いてみて、そこから社会的課題、学術的課題の位置関係等について図を用いながら整理したように記憶しています。

Q.3. リサーチプロポーザルコンテストの応募が日本学術振興会特別研究員申請（採択）においてどの様に影響したと思いますか。

もともと図を作成するのが得意ではなかったので、コンテスト応募での概要図作成における試行錯誤が、学振申請の際の図作成に良い影響を与えてくれたと思います。とはいえ、申請書作成の工夫した点でも言及したように、図作成それ自体に気を取られては、学振申請書もコンテストの申請書も、うまくストーリーを展開することが難しいのではないかと思います。私の場合は、①どのような課題（社会的・学術的）があって、②それに対して自分がどのような研究を行ってきたのか、③それでも何が足りないのか、④これからどのような研究をするのか、⑤それは隣接分野の研究とどのような差異があるのか（+自分の研究に独創性があるのか）、という以上5点を、学振申請書で意識して書きましたが、それはコンテスト応募の際に書いていたことと同じような枠組みでした。

Q.4. 今後、日本学術振興会特別研究員を申請しようとしている院生に、リサーチプロポーザルコンテストでの経験を絡めて、アドバイスがあればお願いします。

もちろん学会発表や論文執筆も大切ですが、競争的資金の獲得や研究員申請の際にこうした申請書の作成もできることは重要であると、主に若手の先生からアドバイスを頂くことがあります。ですので、自分のスキルの一つとして、「読んでもらう」文章作成や概要図作成の良い機会だと捉えて、コンテストへの応募を考えてみてはいかがでしょうか。また、コンテスト申請書の各項目の点数やフィードバックを読んで、そこで満足に書けなかった部分を、学振申請書で改めてまとめてみるというのも一つの方法だと思います。

金築 康友 2015年度リサーチプロポーザルコンテスト優秀賞受賞

2017年度より 日本学術振興会特別研究員 DC2 採択

Q.1. リサーチプロポーザルコンテストに応募したきっかけは何ですか。

メールなどで勧めていただいたことがきっかけとなり、リサーチプロポーザルコンテストの存在を知りました。応募用紙が日本学術振興会特別研究員とほぼ同様であり、大幅に新規項目を追加しなくてもよかったことも応募を行う後押しをしました。

Q.2. 申請書の書き方で工夫した点があれば教えてください。

私が申請の際に行った中で、主要なものは以下の5つです。

- ・ 図をできるだけ使って説明するようにした
- ・ 図はフリー素材でなく、自作のものを可能な限り使うように心がけた
- ・ 指示文（「次の項目について記載してください。」など）に従って内容を記述した
- ・ 強調文字を使いすぎないようにした
- ・ 研究の実問題への応用例も記載した

その他、過去の日本学術振興会特別研究員の申請書類の分析や、指定されたフォーマットにきちんと従って記述できているかなども確認しました。

Q.3. リサーチプロポーザルコンテストの応募が日本学術振興会特別研究員申請（採択）においてどの様に影響したと思いますか。

私の場合は、日本学術振興会特別研究員への申請がリサーチプロポーザルコンテストに大きく影響しました。しかし、リサーチプロポーザルコンテストを行うことによって、研究費の申請書類などへの反省点から改善する部分が多く見つかったり、普段めったに作らないポスター制作技術も学ぶことができました。リサーチプロポーザルコンテストは、研究のコンテストとしてだけでなく、今後社会で活躍していく際に必要な文書作成技術や発表技術、デザイン能力、計画能力など多くのことを自主的に学んでいく機会を与えてくれると思います。

Q.4. 今後、日本学術振興会特別研究員を申請しようとしている院生に、リサーチプロポーザルコンテストでの経験を絡めて、アドバイスがあればお願いします。

他の仲間や研究者がどんな発表を行っているのか、どういった工夫をしているのかを常に観察して、自分の申請・応募に応用することができないか考えてみるのがいいと思います。自分一人で考えたデザインや申請書よりも、多くの人のアイデアを集めた申請書の方がより良い内容になるはずです。

日本学術振興会特別研究員への申請にむけて

例年、5月頃に募集される日本学術振興会特別研究員の募集に積極的な申請を期待しています。大学院キャリアパス推進室では、日本学術振興会特別研究員申請に向けて下記の通り支援を実施いたします。プロポーザルコンテストの講評内容も踏まえつつ、さらに研究計画に磨きをかけて、日本学術振興会特別研究員に申請してください。

2017年9月26日～10月23日	プロポーザルコンテスト 募集期間
2017年11月下旬	プロポーザルコンテスト 審査結果通知（講評付き）
2017年12月中旬	プロポーザルコンテスト 表彰式
2018年2月頃	2019年度採用日本学術振興会特別研究員 募集要項公開
2018年4月上旬	日本学術振興会特別研究員 申請ガイダンス&申請セミナー
2018年5月	日本学術振興会特別研究員 申請書添削

※ 日本学術振興会特別研究員について http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/gcareer/fellow/doctor/article.html/?id=23

（問い合わせ先） 立命館大学 大学院課（衣笠） 日本学術振興会特別研究員 担当まで
メールアドレス：grad-sch@st.ritsumei.ac.jp 電話番号：075-465-8195